■第11回日本放射光学会功労報賞報告

小口拓世氏（高輝度光科学研究センター）

櫻井吉晴　（高輝度光科学研究センター）

この度，高輝度光科学研究センターの小口拓世氏が，第37回日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウムにおきまして，第11回功労報賞を受賞されました。推薦人を代表いたしまして，心よりお祝いを申し上げます。小口氏を推薦するにあたり，多くのユーザーとSPring-8スタッフメンバーの皆様からご賛同いただきましたことに感謝し，以下に小口氏の略歴と業績を紹介させていただきます。

小口拓世氏は，1995年9月に，総合研究大学院大学・数物科学研究科・放射光科学専攻を修了し，「波長可変型X線ポラリメーターの製作とファラデー効果の測定」の研究テーマで，博士（学術）を取得されました。その後，1995年9月から1996年9月まで，理化学研究所に協力研究員として在籍し，1996年にスプリングエイトサービスに就職されました。2003年4月には，高輝度光科学研究センターに移籍し，2015年4月からは同センター・技術支援グループ・技術支援チームのチームリーダーとして活躍されております。

小口氏は，SPring-8の黎明期から25年以上にわたり，数多くのビームラインの立ち上げ・調整に携わり，SPring-8の供用開始後には主に共用ビームラインの放射光実験を陰の立役者として支えつつ，ビームライン担当者が主導する実験装置の高性能化支援に従事されてきました。2015年以降は，技術支援チームのチームリーダーとして，のべ30名にのぼるチームメンバーを率い，一貫して実験現場の多種多様な課題に対処するとともに，臨機応変な対応ができる技術支援スタッフの育成にも取り組んでこられました。

SPring-8の建設期には，ビームラインインターロックや放射線遮蔽ハッチの検査などに携わり，利用期には，ビームタイム中にユーザーが直面している様々な問題を解決するために，ビームライン担当者をとおして，臨機応変に試料ジグや試料ホルダーの機械工作を行ってきました。また，実験ステーションへの大型機器の設置・調整については，チームメンバーとともに即応してきました。さらに，超高分解能アナライザー結晶の温度を精密に調整する温調装置の実装や，高精度で巨大なエアーアームスライドステージの滑らかな動きを維持するための定期検査・メンテナンスなど，放射光実験の精密機器の安定化と普及にチームメンバーとともに貢献されています。

写真1　足立伸一会長と小口拓世氏（授賞式にて）。

小口氏が率いる技術支援チームは，機器設計・制作，プログラミング，共用装置のメンテナンス，共通実験室・工作室の維持管理などをとおして，ユーザーとビームライン担当者の支援を行っています。SPring-8リング棟にある自転車のメンテナンスも技術支援チームが担当しております。本チームの担当範囲は26本の共用ビームラインになりますが，組織の枠を超えた技術相談を小口チームリーダーに持ち掛けられることも多くありました。SPring-8施設公開においても理研スタッフメンバーと協力し，後方支援に徹して多様な実務を担ってきました。このように，放射光ユーザーとしての経験を持ち合わせた小口氏は広く頼りにされてきました。

以上のように，小口拓世氏は，大型実験施設における後方支援の重要性を理解し，SPring-8の放射光実験における技術支援に尽力されてきました。これまでの業績が評価され，功績をたたえる功労報賞の受賞を心よりお慶び申し上げます。おめでとうございました。

(C) 2024 The Japanese Society for Synchrotron Radiation Research